

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1475500706
法人名	社会福祉法人 伸こう福祉会
事業所名	クロスハート 宮前・川崎
訪問調査日	平成23年11月17日
評価確定日	平成24年1月23日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475500706	事業の開始年月日	平成17年2月1日	
		指定年月日	平成17年4月1日	
法人名	社会福祉法人 伸こう福祉会			
事業所名	クロスハート宮前・川崎			
所在地	(216-0001) 神奈川県川崎市宮前区野川3240-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成23年10月31日	評価結果 市町村受理日	平成24年2月9日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年度法人内グループホーム事業所に於いて最優秀施設症を受賞する事が出来ました。開所6年が経過しても6年も経過したとは思えない施設作りを継続し、ご利用者様が過ごしやすく、地域の方々にも開かれた施設を目指して行きたいと思っております。施設の特徴として、四季が感じられる庭があることからご利用者様が日々散歩や安らぎが感じられる環境を維持し、又ご入居頂いている居室には個室トイレ、床暖房、エアコンを設置している事から個々のプライバシーや健康に配慮したきめ細やかなサービスの提供が出来るよう日々努力してまいります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成23年11月17日	評価機関 評価決定日	平成24年1月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●このホームの経営母体は、特養、グループホーム、ケアセンター・ケアプラザ・保育園など多くの福祉事業を展開する「社会福祉法人 伸こう福祉会」である。「クロスハート宮前・川崎」は田園都市線鷺沼駅からバスで15分、最寄バス停から徒歩約5分の静かな住宅地の中に位置し、ウッドデッキがあり季節の草花や木々に囲まれ、四季折々が楽しめる落ち着いた雰囲気のホームである。●内部には下履きのまま入室が出来、共用のリビングを始めホーム内全体は、明るさを確保しつつ、洋風で絵画や高級感のあるインテリアで落ち着きと安らぎを醸し出す工夫がされている。又、全居室に床暖房、トイレ、洗面、クローゼット、も備え付けられ、防災面ではスプリンクラーも完備されている。●運営理念は「すべてのよきものを人生の先輩たち後輩たちに捧ぐ」と謳われた法人の理念と、更に介護に当たる者の心得とも言える「クロスハートベーシック」を機会ある毎に唱え、全職員でその心を理解共有して、これに基づき、利用者の思いを受け止めた「おしゃれに おいしく おつきあい」のサポートが行われている。●またホームではISO9001の認定を取得して、良いサービスを提供する為の過程が管理され、ルールを守り、仕組み通り業務が推進され、顧客や市場ニーズに応える為の業務の標準化やマニュアル化がISOに基づき進められて、誰もが一定の良質な水準のサービスの提供が行える体制が構築されている。更に、職員のスキルアップの取り組みとして、法人の研修をはじめ外部研修で、プランを立て計画的に取り組まれており、ことに施設長を始め全職員が入居者に「おしゃれに」過ごして頂くに相応しいホーム作り(清掃を始め快適環境整備)に熱心で、昨年にはグループ全事業所の中から最優秀施設賞を獲得し、この面でもスキルは高い。●医療支援では川崎中原クリニック、聖和会・共同歯科クリニックの定期往診と緊急時24時間対応があり。他にも訪問看護が週1回、リハビリは月1回、専門家の指導があり、適切な医療支援が行われている。またホームでは看取り介護を行なう方針を持ち、関係医療機関の協力の下に入居者並びに家族の希望に沿った、繰り返しての話し合いを行い、支援体制を整えている。●地域連携に関しては、ボランティア団体会議(野川セブン)への参加と自治会に加入して、各種催事などにも積極的に参加している。ホームでも夏祭などを計画的に開催し、ボランティア・近隣の方々を声にかけてお誘いし、地域繋がりを密にしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	クロスハート宮前・川崎
ユニット名	Aユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「全て良きもの人生の先輩たちと後輩たちへ捧ぐ」のもとサービス提供を行っている。	「すべてのよきものを人生の先輩たち後輩たちに捧ぐ」と謳った法人の理念と「クロスハートベシック」とする介護に当たる者としての心得の7ヶ条を、毎月のミーティング時や日常的にも機会があるたび唱和して確認し合い、全職員で共有している。又これらの考えを基に地域社会との繋がりを大切にし、地域の人や自然と触れ合いながら日々のサービス提供の中に自然なスタイルで実践している。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティア会議 すずの会「野川セブン」に毎月参加している。また「老人いきいの家」のミニデイを利用して頂いている。地域のお祭りやイベントに参加している。	自治会に加入し、自治会の諸行事、お祭りやイベントへ参加し、向こう3軒両隣の方々には防災サポーターに成って頂く等、交流を図っている。また入居者の散歩時にはこちらから声をかけて挨拶をし、ホームを知ってもらっている。更に、市職員、地域包括センター職員も参加している地域ボランティア会議(すずの会)「野川セブン」に毎月参加し、入居状況など情報の提供で交流し、また「老人憩いの家」のミニデイも利用させて頂き、地域の方々との繋がりが定着している。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前述のすずの会「野川セブン」において地域の困難事例等を共有し相互に助け合っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議後は議事録にて情報を発信し、必要に応じてホームミーティングなどで問題解決を図っている。	民生委員、近隣代表、大家さん、野川セブン代表、入居者家族、事業所管理者、職員の参加で運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。ホーム概況と今後の行事計画などを報告し、参加者より様々な意見や提案などを頂いて運営に繁栄させている。会議結果を議事録に残し回覧して職員間の共有を図っている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	前述すずの会「野川セブン」に於いて市町村職員が参加しており、施設報告をしつつ必要な助言を頂いている。	市職員及び区職員が交互に出席していて、夫々とすずの会「野川セブン」の場を通じてホームの入居状況に加え諸事の報告を行ない、時には事業所での処し方不明点を相談したり、助言を求め、更に高齢者支援を行う現場の立場から情報の提供なども行って交流し質の向上に努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修資料を使用して、日常の業務の中で伝えている。ホームの方針として「絶対拘束はしない」ことを徹底している。	運営規定6条5項、契約書7条3項に身体拘束その他利用者の行動を制限しない、但し、利用者又は他の利用者の生命、又は身体保護の為緊急止む無き場合はこの限りではない。但し、速やかな解除と理由説明を本人及び保証人にする。と謳って研修も行われていて、職員全員が拘束、虐待に該当する行為とその禁止について認識している。その上で安全確保のため玄関の施錠は無いが、道路に面した門扉には家族の了解を得て施錠を行なっている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の資料を使用して日常の業務の中で伝えている。職員間で相互に確認し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の資料を使用して日常の業務の中で伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書・契約書の読み合わせを行い利用者・ご家族の不安のないように努めている又随時相談など応じている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会からも聴取している。又、「ちょっと気が付きましたノート」により匿名での意見が言える環境を整備している(利用実績はなし)	苦情対応は重要事項説明6と契約書第14条で窓口担当者及び処理体制を明記し、家族には契約時に説明している。運営推進委員会時や家族の来所時に、管理者や職員との面接で意見、要望を聴くようにし、更に「一寸気が付きましたノート」で意見が言える環境作りもしている。聴取した要望意見は、カンファレンスで検討、内容に応じては法人内苦情処理検討委員会に図った上で運営に反映させ、結果は家族に報告している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームミーティングやケアカンファレンスなどにおいて議案とする事もある。また日常的に職員から意見を貴意している。	ホームミーティングやカンファレンス時に、思いや意見を提案として出してもらい反映出来る様に努めている。費用を伴う案件等は、管理者を通して本部決済を得て反映している。管理者と職員の間は、日々の会話はもとより、時折のお茶や食事会、様々な社内行事などを通じて何事でも気軽に話し合える関係が築かれていて、意見要望等を聴いて運営に反映させている。また、面接制度も取り入れられていて、本部に提案が出来る。パートを含む全職員と年2回の面接を行い意見を聴いている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度の見直しや雇用助成金の申請、福利厚生制度の見直しなど常に職場環境を意識している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を公開し、受けたい職員に関してはシフトの調整を行い参加し易いように配慮している。また全職員を対象とした内部研修を法人内で実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内に置いては全社会議、球技大会、感謝の集い等において他事業の職員との交流の場を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々のご利用者の感情、思いを早めに察知し、安心して生活が出来るようにしている。また必要に応じて臨時のカンファレンス等を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問調査を行い、ご家族からも困っていること、不安、要望などを聞き、ホームでどう生活して頂くかを、ご家族と一緒に考えている時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に訪問調査を行い、ご家族からも困っていること、不安、要望などを聞き、職員間で情報の共有をしている。その中で当面の支援のあり方を協議している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般(家事など)をご利用者から職員も学びながら一緒に行っている。家事などの出来るだけ積極的に関わって頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気軽に訪問していただけるような雰囲気作りをしている。イベントがある時は一緒に参加して頂ける様に呼び掛けをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、馴染みの物、人、過去の生活のアセスメントを行い、出来る限りご本人の望む生活が営まれるよう、配慮している。又施設サービス計画書を作成の際には再度確認している。	これまでの本人とかかわりの有る場所や人間関係の把握は、日ごろの会話や家族からの情報等で把握している。手紙や電話の取次ぎに加え、知人の来所面接には、本人や家族の意向を確かめて、支援をしている。また昔、よく行った店での買い物や、思い出の場所等への訪問は職員や家族との協力で思いに添えるようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとり一人の個性を尊重しながら利用者同士で楽しく会話で切るよう職員が間に入りながら、利用者同士で関われる様に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他の施設に移られて方に関しては、ご様子を伺いに行っている。相談を求められたときは応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	施設サービス作成時、その方の希望に沿うように努めている。日常の会話においてもその方の想いに耳を傾けている。	意思表示が出来る入居者には、日頃の会話を通じて直接聴いて意向の把握を行い、意思表示が難しい入居者には寄り添いで、表情や行動からの汲み取りで気が付いた事をメモにとり、加えて家族からの情報の生活暦とで、一人ひとりの思いや意向を確認し、外出なども本人本位を前提に、ケアプランを作成して対応している。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族に「暮らしの情報ノート」に記入して頂く事で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設サービス計画作成時には「出来る個と出来ないことシート」を用いてアセスメントを実施している。入居時や容態に変化があった時は「24時間シート」を用いて把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度ケース会議を実施。計画作成担当者は、担当職員と話し合いの場を持っている。ご家族にはその都度施設サービス計画書を説明し、希望を伺っている。	入居初期は暫定計画で、約1ヶ月様子を見る。施設サービス計画書の作成は、3ヶ月1度のケース会議の中で日常生活の記録「24時間シート」に加え、職員夫々の経過観測結果に基づき意見を述べあって、家族や計画作成担当者との話し合で、その人の持つ能力が発揮できる計画を立案している。基本的には3ヶ月サイクルで見直しが行われている。但し、変化が見られる場合は、随時見直しを行う。計画を一人ひとりに適した具体的内容とする為、モニタリングは日々評価判定を記録し実施している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	容態の変化などに応じて、「24時間シート」を用いて記入し、情報の共有を図っている。その記録は施設サービス計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時そのときのニーズに合わせて、利用できる資源を有効活用できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その時そのときのニーズに合わせて、利用できる資源を有効活用できるよう取り組んでいる。又地域ボランティア開催のミニデイサービスに1名参加し、地域交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族のご意向に合わせて、月2回主治医による定期往診と、月2回の精神科の往診、週に1度の歯科往診が受けられるよう支援している。	本人、家族の意見を尊重し希望の医療機関を決めている。現在入居前のかかりつけ医の継続受信者は科目の関係で1名が受診し、家族を通じ受診結果など必要情報を共有している。時には家族の希望で通院介助支援も行っている。又、協力医療機関、川崎中原クリニックの月2回の定期往診と鷺沼公園クリニック（精神科）の往診に加え、必要時の臨時往診、また歯科についても「医療社団法人 聖和会」による1回/週の往診、緊急事対応の支援を受け、適切な医療支援が行われている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の訪問看護にて、ご利用者の状況報告を行い、ご利用者の健康管理に努めている。訪問看護は24時間体制で電話相談が出来、必要に応じて主治医へ連絡、指示を受ける体制を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の方が入院した際は、こまめに病院へ赴き、病院関係者との情報交換、ご家族との連絡を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、終末期の希望をご家族から得て、ご利用者の容態が変化した際はご家族、主治医、看護師、管理者、職員との話し合いの場を持ち全員で方針を共有している。ターミナル加算申請、受理されている(今年度については実施実績なし)	事業所としてターミナルケアを行なう方針を掲げ、入居の際に説明をしている。その後も主治医、看護師、家族を含めてその人の意思を尊重した、繰り返しての話し合いの下に、希望に沿って「ホームを終の棲家」として過ごす、最後の時間を大切にしたいターミナルケアを行う事を、全職員で共有している。職員の中には看取りの経験を積んでいる方もいて「永い人生の締め括り」に立ち会える見取り介護を「誇れる仕事」と感じて日々の介護に取り組んでいる。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師のからの指導を通じて実践力を見に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2か防災訓練(昼想定1回、夜想定1回)を実施している。災害時には地域の方々に「防災サポーター」として個別に協力を仰いでいる。	さまざまな災害を想定し、ホームでは災害時通報連絡網の整備に加え、定期的な避難訓練を年2回行うと重要事項10、運営規定12条に定め、規定に基づき所轄消防署指導の下に年2回、昼夜を想定しての防災訓練をご近所有志で構成する防災サポーターの参加も得て実施している。ホームにおいて、災害時の行動手順などの確認も行っている。設備として自動通報装置及びスプリンクラーの設置に加え、非常食料や緊急時対応備品の備蓄も行われている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には声かけには敬語を用いているが、職員も家族のような存在となるように、個々に合わせた、声かけや対応を行っている。	ホーム方針として、入居者のプライバシーを保ち意思、人格を尊重し、支援をする事を説明して、全職員で理解共有している。日々の会話や実際の介護の場面に於いても、親しみと利用者の人格を尊重した話しかけで支援を行い、プライバシーの確保面では、各人の部屋にトイレ、洗面台があり、自室に戻る形でトイレ誘導もさり気なく行われている事が調査時に確認する事ができた。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員によるコミュニケーションの中でご利用者が希望を伝え易いよう、その方に合わせた話方を心がけている。又その方のペースで生活出切る環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のニーズを把握しその日の体調も考慮しながら、その方の望む生活支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の身だしなみには常に気を配っている。また理美容などは月に1回定期的に訪問理美容を利用しているが、希望があれば店に行けるよう連携を取っている。ヘアカラー等にも対応出切るように連携を図っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と職員で協力して、食事の準備や後片付けを行っている。今年度より食材確保を外注業者に依頼し、メニュー内容など月1回の話し合いを通じて要望を伝え、週に1度は3食施設にて全て準備することでご利用者の希望メニューを取り入れる工夫を実施し始めている。	食事の手伝いに関わる人には、調理の下ごしらえや配膳、下膳を手伝ってもらっている。今年度より同法人の業者によるレシピ付き食材の供給を受けて作る日と、利用者と職員とで食材調達を行う日とがあり、ホーム調達日にはリクエストなども受けて、職員と共に調理している。職員と入居者が同じテーブルに付き、入居者に合わせたペースで楽しく談笑しながらの食事が行われている事を、調査時の食事同席で確認出来た。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し1日を通じて摂取量の確認をしている。摂取量が少ない場合などは主治医、訪問看護師、管理栄養士と連携して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1度の訪問歯科にて、ご利用者の口腔内のチェックをしてもらいアドバイスを頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日排泄表に記録することで、排泄パターンを把握し、定時に限らず様子を見ながらトイレにお誘いし、失敗を減らし、気持ち良く排泄出切るように努めている。	「排泄チェック表」で一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握していて、時間を見計らったトイレ誘導と他の人に気付かれない下着交換など、適切な支援でオムツの使用量を減らす工夫として、トイレでの排泄の支援が行われている事を調査時に確認で来た。夜間においても睡眠時間を妨げ無い事を前提に、声かけで支援している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて確認し、必要に応じて主治医、訪問看護師、管理栄養士の指示を受けながら便秘対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限りご利用者の希望に沿って入浴していただいている(回数タイミングなど)	入浴は、清潔保持、身体観察、体調変化の把握などの重要な役割があると考えている。しかし、無理強いすることなく本人の意向を確認しながら入居者の希望に沿って、バイタルチェックと共にタイミングを見計らって、随時入浴の支援を行なっている。いやがる人には、再度の声かけ等で入浴を促している。1階の浴室にはリフト浴も採用されていて高介護度者が利用している。また、季節には菖蒲湯や柚子湯などを楽しめるように工夫もしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由にソファで休まれたり、その時の様子によってはベットにお連れし休息出来るように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用は必要な時直ぐに確認できる様にしている。特に薬が変更になったときには注意して様子を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内で個々のご利用者に合わせてレクリエーションなどを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々買い物、散歩の他に外出の機会を設けている。年1度ご家族の協力により、遠足に出かけている。	散歩を日課として楽しみにしている方もいる反面、車椅子使用の為、出たがらない方もいるが、日々の関わりの中から希望を聴いて誘って、車椅子の方にも外出が出来るよう支援を心掛け、買い物や喫茶店に行ったりしている。ドライブと称して車椅子の方の対応も兼ね、車を利用して日常的に出かけている。また、家族とも相談しながら遠出外出なども計画して、本年度は秋の遠足として10月13日に山中湖への遠出などが実施されている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとり一人の希望や能力に応じて、お金の管理をして頂き買い物などを楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があればご家族確認の上、電話をしたり手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃を行うことと、季節によって花や飾りを考慮している。夫々の場所に担当者を配置し、環境整備に取り組んでいる。	ホーム玄関先には鉢植えの観葉植物が並び、入ると清掃の行き届いたホールでISO認定証の他、理念、重要事項説明書、等が整然と掲げられている。ドアを入るとピアノ、ソファが置かれ、ウッドデッキの庭に出入りができる居間があり、続いて各居室があり、奥には調理室、食堂が配され、館内は大きい窓からの採光も良く、洋風の家具調度品で落ち着いた環境が工夫されている。ホーム内の掃除が行き届き、不快音や異臭も無く、空調管理も施され、寛げる空間作りがされている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には一人になれる場所はないが、ソファや椅子などにより、ゆったりと過ごせる空間になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた好みの物は進んでお持ちいただくよう、ご家族に促している。また居室内は自由にアレンジしていただいている。	入居者各人の部屋にはクローゼット、洗面台、トイレに加え、床暖房と空調設備があり空調管理を職員によって行われている。また、防火設備としてスプリンクラーも施され、安全面でも完備されている。入り口に表札に代わる顔写真が貼られ、室内には使い慣れた思い出の品が持ち込まれており、椅子、ベット、と共に家族写真、ぬいぐるみ、仏壇等も置れ、一人ひとりの思いの設えで生活拠点が作られている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個室には照明スイッチが楽に操作出来るようになっている。消灯時には足元の照明が淡く点灯され安全に配慮している。		

事業所名	クロスハート宮前・川崎
ユニット名	Bユニット

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
	○	2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
	○	3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
	○	2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「全て良きもの人生の先輩たちと後輩たちへ捧ぐ」のもとサービス提供を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティア会議 すずの会「野川セブン」に毎月参加している。また「老人いこいの家」のミニデイを利用させて頂いている。地域のお祭りやイベントに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前述のすずの会「野川セブン」において地域の困難事例等を共有し相互に助け合っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議後は議事録にて情報を発信し、必要に応じてホームミーティングなどで問題解決を図っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	前述すずの会「野川セブン」に於いて市町村職員が参加しており、施設報告をしつつ必要な助言を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修資料を使用して、日常の業務の中で伝えている。ホームの方針として「絶対拘束はしない」ことを徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の資料を使用して日常の業務の中で伝えている。職員間で相互に確認し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の資料を使用して日常の業務の中で伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書・契約書の読み合わせを行い利用者・ご家族の不安のないように努めている又随時相談など応じている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会からも聴取している。又、「ちょっと気が付きましたノート」により匿名での意見が言える環境を整備している(利用実績はなし)		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームミーティングやケアカンファレンスなどにおいて議案とする事もある。また日常的に職員から意見を貴意している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度の見直しや雇用助成金の申請、福利厚生制度の見直しなど常に職場環境を意識している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を公開し、受けたい職員に関してはシフトの調整を行い参加し易いように配慮している。また全職員を対象とした内部研修を法人内で実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内に置いては全社会議、球技大会、感謝の集い等において他事業の職員との交流の場を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々のご利用者の感情、思いを早めに察知し、安心して生活が出来るようにしている。また必要に応じて臨時のカンファレンス等を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問調査を行い、ご家族からも困っていること、不安、要望などを聞き、ホームでどう生活して頂くかを、ご家族と一緒に考えている時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に訪問調査を行い、ご家族からも困っていること、不安、要望などを聞き、職員間で情報の共有をしている。その中で当面の支援のあり方を協議している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般(家事など)をご利用者から職員も学びながら一緒に行っている。家事などの出来るだけ積極的に関わって頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が気軽に訪問していただけるような雰囲気作りをしている。イベントがある時は一緒に参加して頂ける様に呼び掛けをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、馴染みの物、人、過去の生活のアセスメントを行い、出来る限りご本人の望む生活が営まれるよう、配慮している。又施設サービス計画書を作成の際には再度確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとり一人の個性を尊重しながら利用者同士で楽しく会話で切るよう職員が間に入りながら、利用者同士で関われる様に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他の施設に移られて方に関しては、ご様子を伺いに行っている。相談を求められたときは応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	施設サービス作成時、その方の希望に沿うように努めている。日常の会話においてもその方の想いに耳を傾けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族に「暮らしの情報ノート」に記入して頂く事で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設サービス計画作成時には「出来る個と出来ないことシート」を用いてアセスメントを実施している。入居時や容態に変化があった時は「24時間シート」を用いて把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度ケース会議を実施。計画作成担当者は、担当職員と話し合いの場を持っている。ご家族にはその都度施設サービス計画書を説明し、希望を伺っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	容態の変化などに応じて、「24時間シート」を用いて記入し、情報の共有を図っている。その記録は施設サービス計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時そのときのニーズに合わせ、利用できる資源を有効活用できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その時そのときのニーズに合わせ、利用できる資源を有効活用できるよう取り組んでいる。又地域ボランティア開催のミニデイサービスに1名参加し、地域交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族のご意向に合わせ、月2回主治医による定期往診と、月2回の精神科の往診、週に1度の歯科往診が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の訪問看護にて、ご利用者の状況報告を行い、ご利用者の健康管理に努めている。訪問看護は24時間体制で電話相談が出来、必要に応じて主治医へ連絡、指示を受ける体制を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の方が入院した際は、こまめに病院へ赴き、病院関係者との情報交換、ご家族との連絡を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、終末期の希望をご家族から得て、ご利用者の容態が変化した際はご家族、主治医、看護師、管理者、職員との話し合いの場を持ち全員で方針を共有している。ターミナル加算申請、受理されている(今年度については実施実績なし)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師のからの指導を通じて実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2か防災訓練(昼想定1回、夜想定1回)を実施している。災害時には地域の方々に「防災サポーター」として個別に協力を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には声かけには敬語を用いているが、職員も家族のような存在となるように、個々に合わせた、声かけや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員によるコミュニケーションの中でご利用者が希望を伝え易いよう、その方に合わせた話方を心がけている。又その方のペースで生活出切る環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のニーズを把握しその日の体調も考慮しながら、その方の望む生活支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の身だしなみには常に気を配っている。また理美容などは月に1回定期的に訪問理美容を利用しているが、希望があれば店に行けるよう連携を取っている。ヘアカラー等にも対応出切るように連携を図っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と職員で協力して、食事の準備や後片付けを行っている。今年度より食材確保を外注業者に依頼し、メニュー内容など月1回の話し合いを通じて要望を伝え、週に1度は3食施設にて全て準備することでご利用者の希望メニューを取り入れる工夫を実施し始めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し1日を通じて摂取量の確認をしている。摂取量が少ない場合などは主治医、訪問看護師、管理栄養士と連携して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1度の訪問歯科にて、ご利用者の口腔内のチェックをしてもらいアドバイスを頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日排泄表に記録することで、排泄パターンを把握し、定時に限らず様子を見ながらトイレにお誘いし、失敗を減らし、気持ち良く排泄出切るように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて確認し、必要に応じて主治医、訪問看護師、管理栄養士の指示を受けながら便秘対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限りご利用者の希望に沿って入浴していただいている(回数タイミングなど)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由にソファーで休まれたり、その時の様子によってはベッドにお連れし休息出来るように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用は必要な時直ぐに確認できる様になっている。特に薬が変更になったときには注意して様子を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内で個々のご利用者に合わせてレクリエーションなどを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々買い物、散歩の他に外出の機会を設けている。年い1度ご家族の協力により、遠足に出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとり一人の希望や能力に応じて、お金の管理をして頂き買い物などを楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があればご家族確認の上、電話をしたり手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃を行うことと、季節によって花や飾りを考慮している。夫々の場所に担当者を配置し、環境整備に取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には一人になれる場所はないが、ソファや椅子などにより、ゆったりと過ごせる空間になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた好みの物は進んでお持ちいただくよう、ご家族に促している。また居室内は自由にアレンジしていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個室には照明スイッチが楽に操作出来るようになっている。消灯時には足元の照明が淡く点灯され安全に配慮している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

クロスハート宮前・川崎

作成日

平成23年11月17日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	14	他事業者（同業グループホーム）とのつながりを構築する	同業者同士の繋がりによるサービスの質の向上を目指す	野川地区内同業他社グループホーム同士のつながりを持つ事で、お互いの情報交換を行い、地域により密着した施設運営を目指す	12ヶ月
2	12・13	評価制度、自己評価制度導入による職員のスキルアップ及び職務に対する意欲の向上	職員の「上を目指せる」環境作りとサポートを行うことでサービスに対する意欲の向上を目指す	評価制度及び自己目標を明確にする事で、職場での立場等自覚し、より一層ご利用者へのサービス向上を目指せるサポートを行う	12ヶ月
3	48	レクリエーション内容について、スタッフにより差がある	的確に誰でもレクリエーションが行える環境作りを行う	業務時間割を見直し、レクリエーションの定期的開催と内容の標準化（マニュアル等の作成）	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。